

## 2025 年大阪・関西万博からはじまる

### 「日常の中にヘルスケアが溶け込んだミライ社会の実現」

Realizing a Future Society Where Healthcare is Integrated into Daily Life,  
Starting from Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan

馬 場 柚 里

**要 約** BIPROGY株式会社では、新たなヘルスケアサービス事業を立ち上げるべく、そのパーパスを「日常の中にヘルスケアが溶け込んだミライ社会の実現」と定義し、健康・予防領域における生活者への価値提供プロセスの分析・評価を行った。その結果、健康・予防領域においては「情報（計測）→評価→対策」とつながるべき価値提供プロセスが分断されているという課題にたどり着いた。それらを一気通貫でつなぐ価値提供プロセスのリデザインが差別化要素になりうると判断し、『ヘルスケアドライバ事業』と命名した事業化に取り掛かっている。

事業化に向けて困難なこともあったが、2025 年大阪・関西万博「大阪ヘルスケアパビリオン」において当該プロセスの有効性を確認することができたため、万博閉幕後は社会実装を進めている。

**Abstract** BIPROGY Inc. has defined its purpose in the exploration of new healthcare services as “realizing a future society where healthcare is integrated into daily life.” In this context, we have analyzed and evaluated the value delivery process for consumers in the health and prevention sectors. As a result, it was identified that the value delivery process in the health and prevention sectors, which should consist of distinct stages: “Subject/Object -> Assessment -> Plan”, is fragmented. We concluded that redesigning this value delivery process to create a seamless connection among these stages could serve as a differentiating factor. Consequently, we have initiated the commercialization under the name “Healthcare Driver Business.” While there were challenges in commercializing the business, they were able to confirm the effectiveness of the process at the Osaka Healthcare Pavilion at Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan, and have been working on implementing it in society since the Expo closed.

#### 1. は じ め に

厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全企画課による「令和4年度 健康実態調査結果の報告」によると、日常生活での悩みやストレスの有無について「ある」と回答した方が75.0%となっており、悩みやストレスの原因のうち最も気になる原因としては、「自分の健康状態、病気や介護」と回答した方が42.2%と最も多い<sup>[1]</sup>。一方で、内閣府の「令和5年度 男女の健康意識に関する調査報告書」によると、最も気になる症状への対処法については、男女ともに「十分に対処できていない」が55%程度と半数を占めており、その理由としては「金銭的な余裕がない」「どのように対処をしたらよいかかわからない」「我慢すればいいと思っている」が上位となっている<sup>[2]</sup>。

これらの結果は、わが国では国民皆保険制度により医療費が安価で済むために、生活者一人

ひとりの「疾病予防」に対する意識が希薄になっていることの現れと言える。一方で、こうした意識の希薄さによって、当たり前だと思っていた健康が時とともに失われ、予防できたはずの病気が発症することで、心身の制約が顕在化し、ようやく健康の大切さが認知される。

そのような「疾病予防」に対する意識を変えるため、BIPROGY 株式会社（以下、BIPROGY または当社）では、「日常の中にヘルスケアが溶け込んだミライ社会の実現」というパーパスを掲げた。健康・予防が日常の一部として機能し、無意識のうちに生活者一人ひとりがその人らしい健康行動へ踏み出せる社会を実現すべく「ミライのヘルスケアサービス」の創造に取り組んでいる。

本稿では、BIPROGY がミライのヘルスケアサービスの検討を進める中で得た「生活者への価値提供プロセスのリデザイン」という“気づき”を論じ、それを実現するフィールドとして2025年大阪・関西万博を契機とした社会実装事例を紹介する。まず2章で、健康・予防領域における価値提供プロセスのアプローチ仮説を述べた後、3章で、仮説に基づく社会実装事例に向けて2025年大阪・関西万博で展示した「大阪ヘルスケアパビリオン」および公募型プロポーザル「ミライのヘルスケア活動サポート事業」について説明する。

## 2. 「日常の中にヘルスケアが溶け込んだミライ社会の実現」に向けて

本章では、健康・予防領域と医療領域における「価値提供プロセス」の構造的相違（その気づき）から導出した事業仮説（アプローチ）と、それを実現する BIPROGY の新規事業『ヘルスケアドライバ事業』について論じる。

### 2.1 健康・予防領域と医療領域の定義

JAH1（公益財団法人日本ヘルスケア協会）は、「ヘルスケア」を「自らの『生きる力』を引き上げ、病気や心身の不調からの『自由』を実現するために、各産業が横断的にその実現に向け支援し、新しい価値を創造すること、またはそのための諸活動をいう」と定義している<sup>[3]</sup>。すなわちヘルスケアとは、健康な状態も病気にかかっている状態も対象とする、きわめて広範な概念であると捉えることができる。

そこで本稿では、ヘルスケアの範囲を“個人の置かれている段階”の観点から、病気と診断される前の段階を「健康・予防領域」、病気と診断された後の段階を「医療領域」と定義する（図1）。

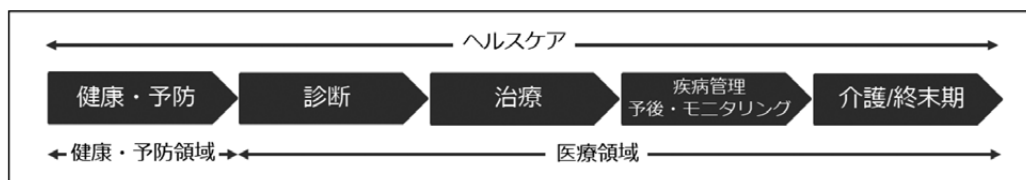


図1 ヘルスケアの範囲

### 2.2 健康・予防領域と医療領域の違い

医療領域では、診断から治療までの一貫性を表現する記録方法の一つとして「SOAP」\*1と呼ばれる考え方が一般的である。これを健康・予防領域にも当てはめ、両者の構造的な違いを

整理したものを図2に示す。

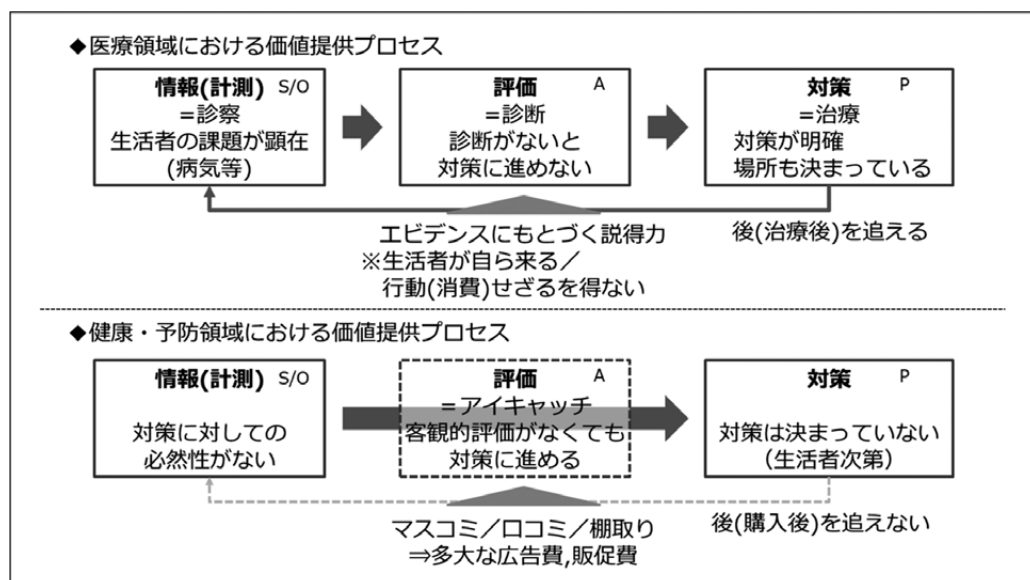


図2 医療領域および健康・予防領域における価値提供プロセス

医療領域における価値提供プロセスを見ると、「情報（計測）→評価→対策」の一連のプロセスが滞りなく進んでいる。ここには次のような特徴がある。

- ① 情報（計測）：医療領域では、生活者（患者）の課題は何らかの“症状”として顕在化しており、患者自らが診察を受けに来る。
- ② 評価：病気の診断には医師という絶対的存在が介在する。医師は患者の状態を見極め、数々の臨床試験データに基づいて、治療方針を決定する。
- ③ 対策：患者は医師が決定した治療計画どおりに治療を受ける。また、定期的な通院により治療後の観察ができる。

一方、健康・予防領域における価値提供プロセスを見ると、次のような点が医療領域とは異なっており、「評価」の前後でプロセスが分断されていることが分かる。

- ① 情報（計測）：健康・予防領域では、生活者の課題は顕在化しておらず、生活者は何らかの「対策」を取る必要に迫られていない。
- ② 評価：医療領域と比較して、「対策」を支持するエビデンスに欠ける。そのため生活者は、マスコミ報道、SNS 上の口コミ、店舗での販促ポップなどの「アイキャッチ」に影響されてしまうことがしばしばある。
- ③ 対策：医療領域における医師のように、生活者の状態を見極めて具体的な対策を提示する存在が不在である。そのため、生活者は自己判断で「対策」を選ぶことになり、また「対策」を継続するかどうかは生活者次第となっている。

このように、健康・予防領域と医療領域には構造的な違いが生じており、この違いにより、健康・予防領域では生活者に適切な対策が届かず、健康行動を起こすに至ってない（＝健康・予防領域での消費が進まない）。

### 2.3 健康・予防領域における価値提供プロセスへのアプローチ仮説

これらの整理のもと、健康・予防領域における健康行動促進のためには、以下①～③の要素を充足させ、プロセスの分断を解消し、医療領域と同様の『一気通貫の価値提供プロセスにすること』が不可欠であるとの仮説を定義した（図3）。

- ① 課題の顕在化/気付かせる：生活者自身も気付いていない生活者の健康課題を明らかにする。また、そのような機会を提供する。
- ② 対策に意味を持たせる：プロセスの中でも特に未成熟な「評価」の部分について、説得力のあるエビデンスに基づいた対策を提案して、生活者が健康行動を起こすに足る動機を提供する。
- ③ 継続的な接点を持つ：健康行動を起こした後を観察できるよう、生活者との接点を持ち続ける。

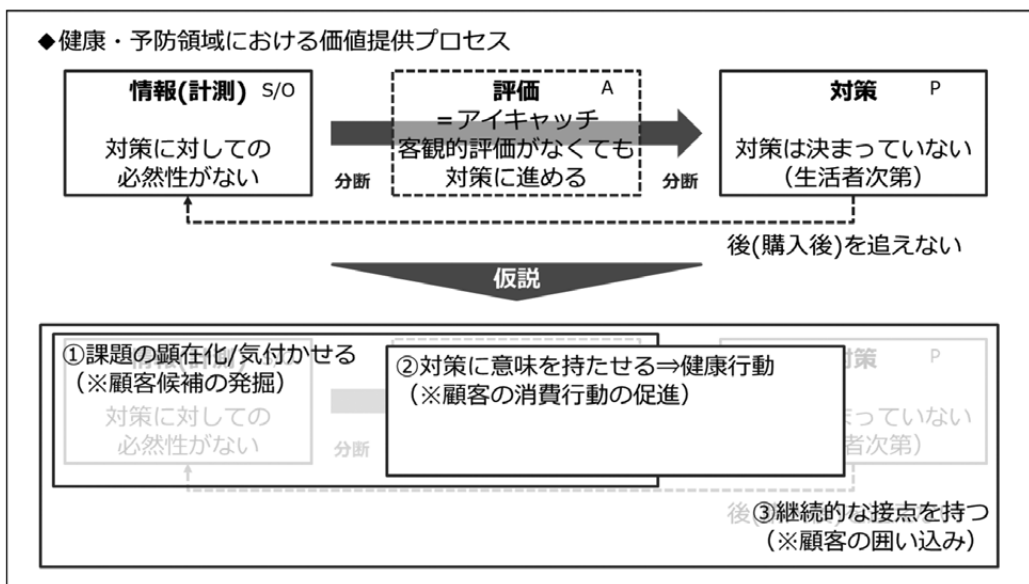


図3 健康・予防領域における価値提供プロセスへのアプローチ仮説

### 2.4 ミライのヘルスケアサービス創造：ヘルスケアドライバ事業

これまで、ヘルスケア市場にはIT業界含め多数の企業が参入しており、レッドオーシャンと呼ばれて久しいが、前節の「健康・予防領域における価値提供プロセスへのアプローチ」を実現できている企業は確認されていない。

そこで、健康・予防領域において、SOAPの一気通貫によって「生活者への新たな価値提供プロセス」をいち早くデザインすることが重要だと考え、他社経営資源との結合などにより

“生活者への価値提供プロセス全体を一気通貫でつなげるサービス”を事業化することを BIPROGY の基本戦略とした。生活者が健康行動を取るための“駆動装置”や“推進力”となる意味を込めて『ヘルスケアドライバ事業』と命名した (図 4)。

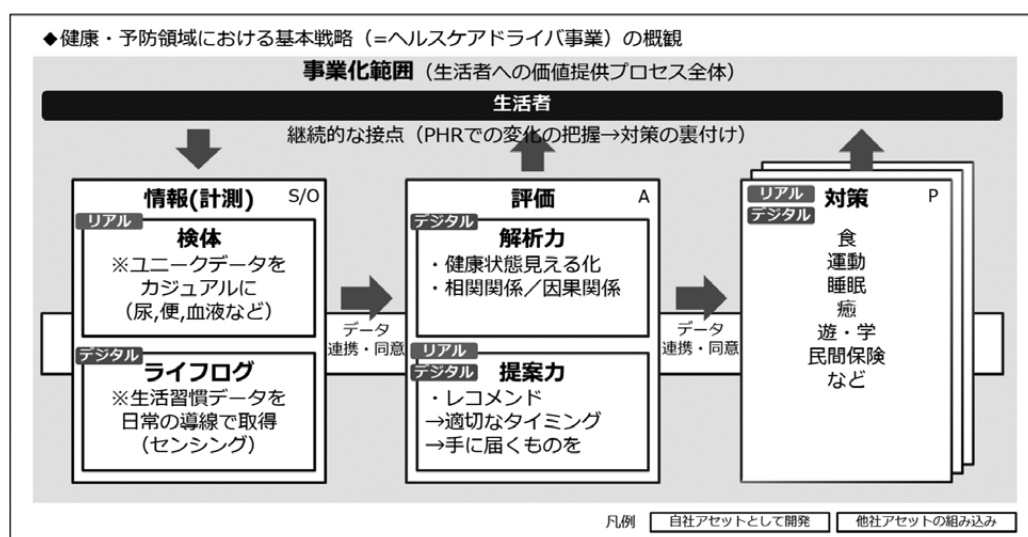


図 4 ヘルスケアドライバ事業の概観

本事業は、多面的な「情報（計測）」を組み合わせ、生活者の健康状態を深く「評価」し、その人に合った「対策」をレコメンドするものである。しかし、この価値提供プロセスは複雑であり、どこか一社のみで成し得る事はできないため、実現は容易ではない。しかしながら、「大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn<sup>\*2</sup>」（以下、大阪ヘルスケアパビリオン）における展示体験という形で実現に至った。

そして、この展示体験を万博閉幕後に社会実装することが「ミライのヘルスケアサービス」の実現であり、その中核を成す事業（サービス）が『ヘルスケアドライバ事業』である。

### 3. 2025 年大阪・関西万博を契機とした社会実装事例

本章では、2025 年大阪・関西万博「大阪ヘルスケアパビリオン」の展示体験の概要と BIPROGY 参画の意義、そしてそれを社会実装する「ミライのヘルスケア活動サポート事業」の具体的な提供サービスについて述べる。

#### 3.1 2025 年大阪・関西万博「大阪ヘルスケアパビリオン」の展示体験

本節では、大阪ヘルスケアパビリオンの「リボーン体験ルート」の概要と BIPROGY 参画の意義を述べる。

##### 3.1.1 リボーン体験ルートの概要

大阪ヘルスケアパビリオンのメイン展示体験である「リボーン体験ルート」では、「カラダ測定ポッド」を使って、肌、髪、心血管など、七つの項目を測定する。そのデータを基に生成した 25 年後の自分のアバター「ミライのじぶん」に出会い、その後ミライのじぶんと一緒に

「ミライのヘルスケア」や「ミライの都市」を体験できるブースをめぐることで、新たな自分へと生まれ変わるきっかけを提供する。

ここで、カラダ測定ポッドを「情報（計測）」、ミライのじぶんを「評価」、ミライのヘルスケア・ミライの都市を「対策」と捉えると、BIPROGY が考える「健康・予防領域の価値提供プロセス」に合致する（図5）。

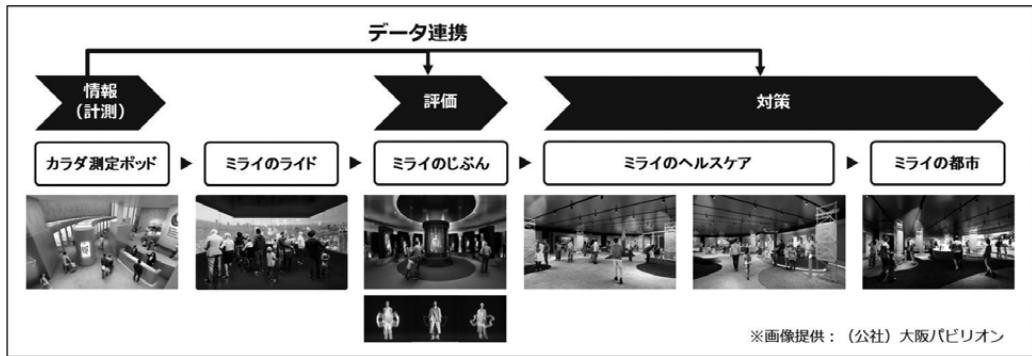


図5 リボーン体験ルートの流れ

### 3.1.2 BIPROGY が担う役割と参画意義

2章で述べたとおり、BIPROGY は、健康・予防領域の価値提供プロセス全体を、他社経営資源との結合などにより“一気通貫でつなげる”サービスの事業化を目指している。そしてこのモデルを実現するために、2023年度より公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオンから「システムPMO業務」を受託し、大阪ヘルスケアパビリオンの展示体験を構成するシステム全体の進捗管理・課題管理・連携調整などを行ってきた。その結果、健康・予防領域の価値提供プロセスを、必要なプレイヤーを複数巻き込みながら一気通貫で実現するモデルや仕組みを作ることができた。また、展示体験を構成するシステムの一つとして、BIPROGY の分散型パーソナルデータ流通基盤「Dot to Dot」の現物協賛も行うことで、PHR（Personal Health Record）データの利活用に欠かせない「データ連携」を担うポジションを確立することができた（図6）。

「Dot to Dot」は、三井不動産株式会社とBIPROGY が共同開発したデータ連携基盤である。柏の葉スマートシティでパーソナルデータを活用したウェルネスヘルスケア領域の住民サービスを強化するために、2020年からサービス提供を開始した。「Dot to Dot」は個人の健康情報をアプリと安全に連携させることに加えて、情報利用に関する「同意管理」や、目的に照らした利用実績の確認を実現している<sup>[4]</sup>。大阪ヘルスケアパビリオンでは、「カラダ測定ポッド」で測定したPHRデータを「ミライのじぶん」や「ミライのヘルスケア」へとデータ連携する役割を果たした。

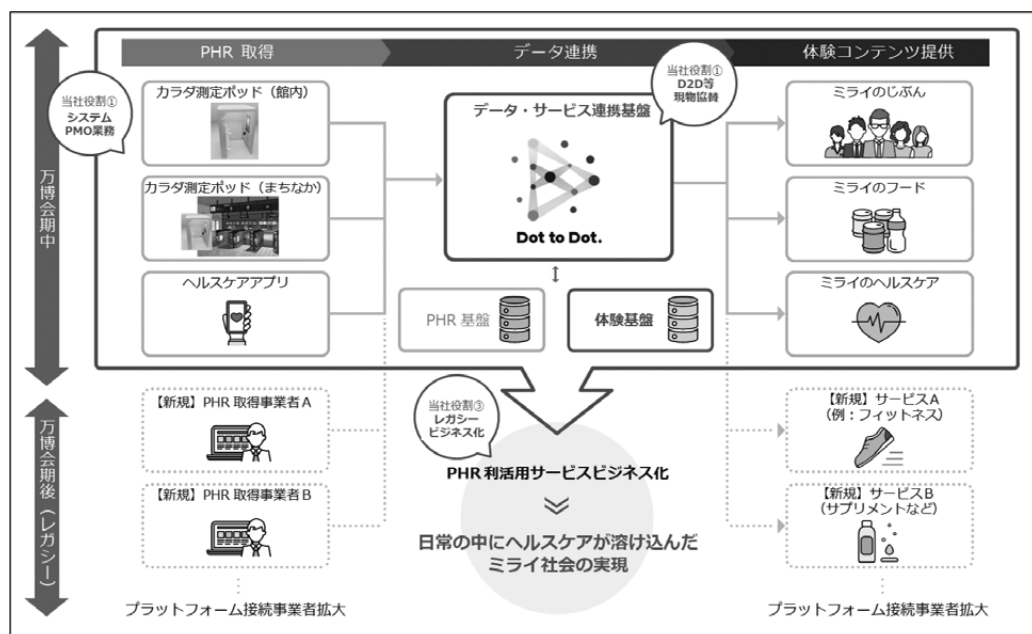


図 6 大阪ヘルスケアパビリオンにおける当社役割

### 3.2 大阪ヘルスケアパビリオンにおけるミライのヘルスケア活動サポート事業

「大阪ヘルスケアパビリオン出展基本計画」において、大阪ヘルスケアパビリオンは、いのちや健康の観点から、未来社会のモデルを世界に向けて発信する取り組みをレガシーとして後世に継承することで、「大阪の成長と経済発展」および「いのち輝く幸せな暮らし」の実現に向けて貢献することをめざす<sup>[5]</sup>とされている。そのソフトレガシー化の取り組みとして、当該パビリオンが提供する「日常的に容易に健康情報を把握でき、パーソナライズされたヘルスケアを受けられる」といった体験の仕組みそのものを民間事業者を引き継ぐことを目的に、2025年1月14日に「ミライのヘルスケア活動サポート事業業務委託」の公募型プロポーザルが実施された。

これは万博で実現する一貫通貫モデル・仕組みの社会実装化であり、「ミライのヘルスケアサービス」への足掛かりとなる。そのため BIPROGY は、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社博報堂とともに「PHR コネクト共同企業体」という共同企業体を組成して応札し、選定委員会委員による審査のもと、2025年3月26日に優先提案事業者として選定を受けた。現在は2025年度中のサービス提供に向けて準備中である。

PHR コネクト共同企業体の提案内容は図7に示すとおりである。生活者との接点と PHR (Personal Health Record)<sup>\*3</sup> を獲得する「プラットフォーム」に、PHR などを活用する「各種サービス」がつながる2階建ての構成を取っている。なお、後者は西日本旅客鉄道株式会社と株式会社博報堂が共同で立ち上げた駅ナカ健康管理拠点「DotHealth Osaka」において提供する。

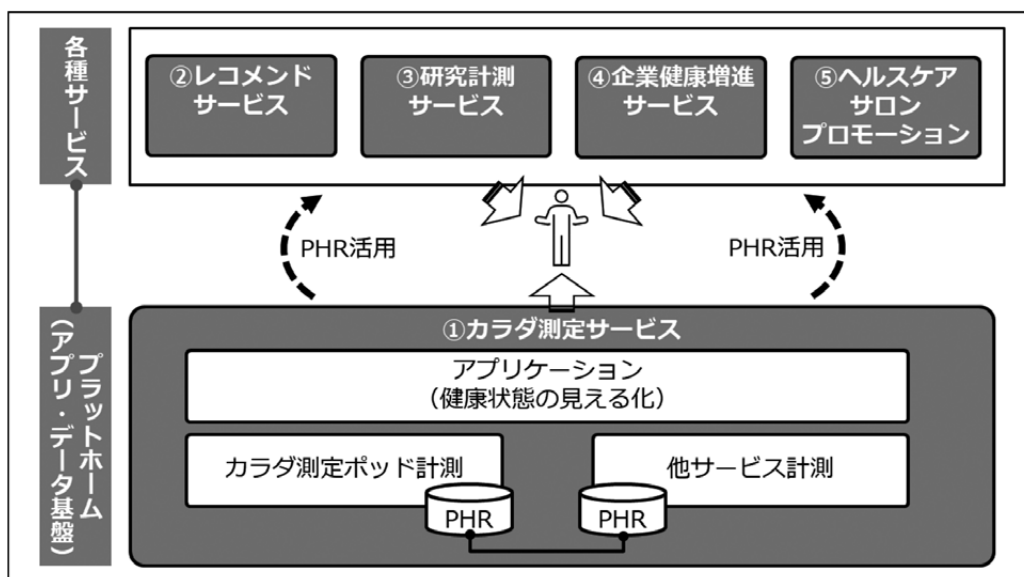


図7 「ミライのヘルスケア活動サポート事業」のサービス構成

各サービスの概要は次のとおりである。

- ① カラダ測定サービス：「カラダ測定ポッド」を生活者の日常動線である“駅”中心に設置し、センシングおよびアプリケーションを用いた見える化により、生活者が日常的に容易に健康情報を把握できる環境を構築する。また、すでに計測事業を運営している事業者<sup>※4</sup>と連携し、より専門的なPHRのデータ連携も行う。
- ② レコメンドサービス：カラダ測定サービスでの測定結果を基に、生活者に適した解決策を提案する。解決策の提供にあたっては、駅ナカのコンビニなどと連携することを計画している。情報（計測）～評価～対策の価値提供プロセスを“駅”という環境の中で、一貫通貫で実現できる点は、本事業ならではの強みである。
- ③ 研究計測サービス：カラダ測定サービスの利用者を“モニターパネル”と位置づけ、ヘルスケア分野の商品開発などを行うサービス事業者（例：食品メーカー）における研究計測（商品のモニター試験）の効率化に貢献する。
- ④ 企業健康増進サービス：“駅”という環境特性（日常の動線上）を活かし、企業従業員の定期的な健康状態把握を支援する。また、企業健康保険組合向けに特定保健指導の機能強化・簡便化や、人事部向けに未病対策ソリューションの提供なども想定している。
- ⑤ ヘルスケアサロンプロモーションサービス：JR大阪駅の日抜き通りに開設された駅ナカ健康管理拠点「DotHealth Osaka」に協賛ゾーンを設け、事業者サービスのプロモーションやイベント（実証実験含む）の機会を提供する。

#### 4. お わ り に

BIPROGYにとって大阪ヘルスケアパビリオンへの参画は、「日常の中にヘルスケアが溶け込んだミライ社会の実現」に向けた“出発点”に過ぎない。2025年10月13日の大阪・関西万博閉幕の翌日からは“社会実装”のフェーズを進める。

まずは、JR 大阪駅の一等地に構える「DotHealth Osaka」を起点に、まさに日常の動線上での先進的なヘルスケア体験を生活者に提供していく。今後の展望としては、駅以外にも様々な日常の動線上に「情報（計測）→評価→対策」の価値提供プロセスを一貫通貫で提供する拠点を展開していく予定である。例えば、オフィスワーカーにとっての日常動線である「オフィスビル」などはその筆頭候補となっており、他にもコンビニエンスストア、ショッピングモール、空港ラウンジ、自治体拠点など、様々な日常動線を押さえ、各セグメントに深く刺さるサービスを展開することで事業拡大を図っていく考えである。現時点で、駅および駅以外での新規サービスのローンチ準備中ではあるが、これら一連のアプローチについて、サービス事業開発・推進における向き合い方の一助となれば幸いである。

最後に、本稿執筆の背景となったヘルスケアドライバ事業の関係者各位、および執筆指導いただいた関係者各位に心より感謝を申し上げる。

- 
- \* 1 S (Subject) : 主観的情報, O (Object) : 客観的情報, A (Assessment) : 評価, P (Plan) : 計画 (対策).
  - \* 2 2025 年大阪・関西万博に大阪府、大阪市、2025 年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会大阪パビリオンが出展するパビリオン。
  - \* 3 個人の健康・医療情報の記録のこと。本稿では主に“健康情報”として使用する。
  - \* 4 一般社団法人プレジジョンヘルスケア研究機構 (<https://j-phr.org/>) を指す。該社は生活者の健康計測を継続的に実施し、健康維持・増進のためのソリューション開発に貢献している。

- 参考文献** [1] 厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全企画課, 「令和 4 年度 健康実態調査結果の報告」, P23, 2023 年 1 月, <https://www.mhlw.go.jp/content/11131500/001077224.pdf>
- [2] 株式会社マーケティング・コミュニケーションズ, 「令和 5 年度 男女の健康意識に関する調査報告書」, PP.36 ~ 38, 2024 年 3 月, [https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/kenkou\\_r05s/01.pdf](https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/kenkou_r05s/01.pdf)
- [3] 公益財団法人日本ヘルスケア協会 (JAH1), 「ヘルスケアの定義」, <https://jahi.jp/about/healthcare-definition/>
- [4] 山本史朗, 笈川貴将, 箱崎浩大, パーソナルデータ流通基盤“Dot to Dot”による共創の未来, BIPROGY 技報, BIPROGY, Vol.41 No.3, 通巻 150 号, 2021 年 12 月, [https://www.biprogy.com/pdf/tec\\_info/15005.pdf](https://www.biprogy.com/pdf/tec_info/15005.pdf)
- [5] 2025 年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会, 「2025 年日本国際博覧会大阪パビリオン出展基本計画」, P45, 2022 年 3 月, [https://2025osaka-pavilion.jp/overview/summary-plan/OsakaPavilion\\_Plan.pdf](https://2025osaka-pavilion.jp/overview/summary-plan/OsakaPavilion_Plan.pdf)

※ 上記注釈および参考文献に示した URL のリンク先は、2025 年 10 月 27 日時点での存在を確認。

#### 執筆者紹介 馬場 柚里 (Yuri Bamba)

2020 年 BIPROGY (株) 入社。ヘルスケア領域の新規事業開発に従事し、地方自治体や医療法人グループとの共創ビジネス創出に取り組む。2023 年より大阪・関西万博を契機とした新たなヘルスケアサービスの事業化に従事し、現在に至る。

